

題名 海学で手に入れたもの

作者名 峯岸 泰希（みねぎし たいき）

学校名 成城学園中学校

学年 一年

海学の始まりは、6月であった。

大学側と連携して、大学の温水プールで海学に備えて泳ぎの練習をする。

6月。寒いながら入る温水プール。表示してある水温は本当の水温なのかと疑うくらいの寒さである。

事前に泳力アンケートを取り、A班からD班まで振り分けをされる。

僕はと言うと、最後に泳いだのがおよそ5年前。勿論泳ぎは、ほほできないと回答した。

1回目の温水プールの授業でアンケートをもとに泳力チェックをした。

やはり僕は泳げなかった。

だから、D班で基礎から学ぶことになった。

D班というのは、そもそも泳いだことがない人からクロールは泳げるといふ人まで様々な人が振り分けられている。

なので、泳力も班の中で変動してくるのだ。

僕はその中で、真ん中のちよつと泳げる方だった。

そこから、平泳ぎを体育の時間に合計2ヶ月間学んでいった。

足の形・イメージ・浮く力など沢山の練習をした。

昇級していった友達も降格していった友達もたくさんいたが、僕は変動しなかった。

最後の屋内プールの練習では、ほほ全員が25メートルは平泳ぎを泳いでいた。

7月。外プールが解禁された。この外プールは、小学校と同じ場所を利用していく。

水温はというと、やはり寒かった。しかし、日が経つにつれ温かくなっていった。

また、新しいメンバーも加わった。高校のライフセービング部だ。

ライフセービング部に協力してもらいながら、当日まで泳ぎを練習する。

外プールで練習し始めるということは、基本的には泳ぎだけの授業をやっていくということだ。

基礎的な練習は終了し、泳げる距離を伸ばしてゆく。それが、目標だ。

外練習は、すぐ早く感じられた。1ヶ月だけだったので物理的にも短いが、僕らにとっては2週間くらいにしか思えなかった。

だが現実の世界を見ると、練習回数は10回を超えていた。

全ての練習が終わった後、記録会というイベントがある。

これは、A班は2キロ、B班は1キロの遠泳。C班は500メートル、D班は250メートルをプールで泳ぐイベントだ。

僕は外練習の期間で、急成長した。

平泳ぎをずっと泳ぎ続けることができ、C班に昇級することも可能だった。実際、そのような話を先生から頂いたのだ。

でも、D班に残ってみんなと泳ぎたいと思った。しかもC班の場合、海の学校中はずっとD班と合同なので、D班と実施内容があまり変わらないのだ。

D班に残ってみんなと泳ぎたいと思ったのには理由がある。それは、みんなが泳げるようになってから泳げない子というのが出てきたということに関係してくる。

そのような現象が起きるのは、仕方がないことだ。人間には、向き不向きがあるから。でも、その子達が必死に頑張っているのを見ると、応援したくなるし励まされる。

勿論、その子によって時間が延びてしまうことも多々あった。

それでも、間近で応援することのできるD班に僕は残っていたかったのだ。

どんなに遅れても、どんなに辛くても、どんなに苦しくても。頑張ってゴールを目指す。かっこいいと思う。

そんな中迎えた、7月14日。僕の誕生日だった。記録会のこの日は、あいにくの雨だった。大量の雨が降っていたこの日、記録会は決行された。A B班の待ち時間、テントに雨は溜まるし、寒くて震えるし。大変だった。

普通だったら中止すべき天候だ。

手が悴んできた頃、出番がやってきた。

テントの中でする準備体操。プールサイドは滑るから、慎重に行動しなければならない。一歩踏み外したら、大惨事である。

止みそうにない雨がまだ降っている。そんな中、スタートの笛が鳴った。

僕は、1番最初なのでトップバッターということになる。一番速く進み、一番後ろとの間隔を調整する役割だ。

往復5周。これが僕たちの試練だった。

3周目に入る頃だっただろうか。奇跡は起きた。

一気に晴れたのだ。

あの止みそうにない雨が止んだ。

情景描写というのは、本当に起こるものなのだと実感した。

後ろにいる皆も僕と同じように頑張っているのを感じながら、僕は前に進んで行った。

記録会はあつという間に終わってしまった。

1番最初にプールサイドに上がったので、D班が泳いでいるのを見ると、みんなも水面も同じくらい光り輝いていた。

C班もその後直ぐに終わり、記録会は終了した。

残りは、海の学校のみだ。千葉県富浦で行われる海学は、新型コロナの影響で2年間中止になっていた。

だから今回の海学は、体育科・ライフセービング部も凄く楽しみにしていて気合が入っている。

2週間後。海学がスタートした。学校からバスで約2時間。前後半に分かれ、前半チームの僕らは4クラス体制で富浦に向かう。

富浦に着いた。その日の午後には海に入る。

ホテルに着いてすぐご飯を食べて、自分達の宿泊部屋で着替えをした。着替えをしたら、体温を保つためのテーピングを耳にした。

それから、ロビー集合の時間まで部屋に待機する。

集合時間になったら、ビーチサンダルを履き、アクアシューズと着替えを持ってロビーに集合する。

海ではアクアシューズを履くのだ。

バスで移動すること15分。富浦の原岡海岸に着く。初日はここで、3日間の流れの説明を受けた。水遊びなどをしたりした。

また、体操代わりに、先生独自のダンスを踊る。謎めいた踊りを踊ってから、急に明日からの3日間が不安が押し寄せてきた。

1日目の海のカリキュラムは、砂遊びをするだけだった。記念写真も撮った。それから着替えをして、宿に戻る。その後、講習会というのを受けた。これは、夕食後に実施されるライフセービングに関するカリキュラムだ。具体的には、波が強いところや海の危険性。もしものことがあった時どうすれば良いのかについてを学んだ。それが一日目の講習会だった。眠れないかと思ったが、意外とぐっすり眠りにつけた。

二日目。天候は良好。朝食の時に確認事項の伝達などを受けて、午前から原岡海岸だった。身支度を早めに済ませてしまい、ロビーに集合。海岸に着くと、ダンスが始まった。ダンスが終わると、レスキューボードを利用した実習になった。

フランスの取り方が難しく、漕がなければならぬレスキューボードは、ライフセービング部のプロ達はちゃんと使っていた。

さすがだ。

レスキューボードで遊んだら、午後の遠泳や隊列泳の練習した。午前のウォーミングアップなので、みんなで隊列泳をしたくらいだ。

午前はこれでおしまい。着替えて、一旦宿泊施設に戻った。昼食を食べて、また海岸に戻る。

明日も明後日も。

少し不安は軽減されてきたが、やはりまだ不安はある。

迎えた午後、CD班の僕らは隊列泳をした。隊列泳とは、40分間止まらずにひたすら泳ぐということだ。

止まってしまうと単純に、クラゲに刺される恐れがある。実際、クラゲに刺された子もいた。勿論僕は、ずっと泳いでいたのでクラゲに刺されなかった。しかし、クラゲのカサの部分には何度も触ってしまった。

隊列泳が終わって記念撮影をした。

その後まもなく、A班とB班が戻ってきた。A班とB班は、遠泳で2キロ泳いでいたのだ。

こうして、二日目の海でのカリキュラムが終了した。

二日目の講習会は、心臓マッサージについてだ。

以前から救命学を学んでいた僕からすると、話される内容はほぼ知っていた。だが実践すると、なかなか100%にならない。落ち度は分かっている。しかし、中々100%というのは難しいものだ。

難しいものだ。心マがこんなに難しいものだとは思ってもいなかった。

そんなこんなで、二日目は終わった。半分が終わってしまったのだ。

三日目。この日はお楽しみ会があるので、海での練習は午前だけだった。

海岸でダンスをする時に、前に出て踊らないかと誘われたので、前に出て踊った。

不安どころか、結構楽しかった。

そんな海学も明日でおしまいだ。そんなことを考えるより、今を楽しもうと思った。

ダンスが終わると、ライフジャケットの講習をした。

ライフジャケットを着用して、遊泳禁止区域に落水して泳いだ浜に戻るといふ練習だ。

恐らく、ライフセーバーがたくさんいることから遊泳禁止区域での練習が許可されたのだろう。

落水体験は、僕がクラスのトップバッターだった。

怖かったけど、意外と楽しかった。冷たい海を感じながら、僕らは浜へ戻った。

こうして、三日目の海でのカリキュラムは終わりだ。午後は、クラスの時間とお楽しみ会の練習だ。

迎えた午後、悪天候だった。だからクラスの時間は、室内で過ごすしか無かったのだ。

様々なレクをした。誰かを褒めるゲーム等1時間30分くらい楽しんだ。そこで、僕が少し褒められた。

それで調子に乗ったのが後々痛手となるのだった。

早めにお楽しみ会の練習が始まった。僕らのクラスの男子は「桃太郎」をやることになっていた。

当初僕は、お婆さん役だった。しかし、桃太郎役が自ら僕を指名して配役変更になった。

桃太郎の役柄を面白くするために、桃太郎を厳つくする設定だった。

しかしそれが過度すぎて、リハーサルの時に女子達は笑いながらドン引き。

煽る動きや声の低さなどが凄かったらしい。

どうしようか男子達で検討した末、このまま演出を変えずにやることにした。

そして迎えた本番。声の低さの時に小さい「キャー」。ここまではまだマシだった。煽る動きをした瞬間、ドン引きしすぎてとあるクラスの女子全員が立ち上がって「キャー」と大声で言った。

心の中で「多分、二学期廊下歩けないな」と思った。でも、楽しかった。

それでお楽しみ会は幕を閉じた。

最終日。朝の体操は、雨がばらっていたので中で実施。

朝のスピーチは、僕がやった。

スピーチでは、「最後の日なので、色々な人に感謝をしましょう」ということを話した。いつも通りバスに乗り、海岸に到着。最後のダンスも前で踊った。ダンスを踊った後の振り返りも僕がやった。

内容としては、「この踊りを始めて踊った時より、みんなが輝いていた」という話をした。予定通りに午前は、泳いだ。泳いだというより、自由時間を過ごしたという表現の方が良いだろうか。

砂場で遊んだり、水遊びをしたり。

「ここにもっといたい」という声も、たくさんあったようだ。僕もそう思っていた。

昼食を食べて、富浦を出た。4日間の感謝はちゃんとしてきた。

16時頃に学校に戻ってきた。お楽しみ会の話などしながら帰宅。

楽しい日々だった。

海学では、泳ぐということだけでなく、美しさというものも学んだ。

みんなが輝く姿を見れた海学に感謝しかない。

ちなみに僕はというと、2学期最初の1週間は視線を感じていた。

お楽しみ会が結構効いていたのだろう。

でも、それをきっかけに他クラスに新しい友達もできた。

結果オーライというところだろうか（笑）

僕の印象がガラッと変わったのだろう。

6月の練習から海学は始まっていた。6月から8月までの3ヶ月間。長かったようで短かった3ヶ月間。楽しかった3ヶ月間。大切なものを見つけた3ヶ月間。キリがないので、このくらいにしておこう。何がともあれ、この3ヶ月は僕にとって有意義な時間となった。

そんなこんなで、僕らの海学は幕を閉じた。